

資料-2

今後のスケジュール

旭川開発建設部 治水課

既往検討から確認できた事項と今後の課題(1/2)

➤ 河床変動シミュレーションや大型模型実験など、既往検討より河床低下対策実施後の状況について以下が確認できた。

<河床変化>

- 昭和50年代半ばから現在に至る30年間の間に生じてきた滯筋が発達するような河床低下は生じない
- また、河床には砂州が形成され、その波高や波長は、本対策で目指してしている砂礫区間(対策区間より上流の区間:KP167付近)で形成されているものと類似した形状である
- 対策後、時間の経過とともに河岸際が縦断的に露岩する傾向にある

<対策>

- 覆礫下流端に帯工を設置予定であったが、当初予定していた箇所へ設置したとしても、十分な効果が見込めない
- 岩盤被覆厚を厚くしたとしても、露岩箇所には大きな変化はない。ただし、当該箇所が露岩するまでに要する時間が長くなるため、延命措置となる



低水路拡幅および覆礫による河床低下対策は、昭和50年代より生じてきた滯筋が発達するような河床低下を抑制する効果が見込める。しかしながら、既往検討から確認された懸念もある。

今後の課題(2/2)

- 既往検討から抽出された懸念事項、今後の課題および検討方法(案)を以下にします

【懸念事項】

河岸際が連続して露岩する傾向にあり、河岸際で岩盤洗掘が生じる可能性がある

対策工完成後の渇水期を想定し、魚が行き来出来る程度の水みちが確保されるか？

対策工完成途中段階における河床低下対策効果や洪水が対策工に与える影響は？

【課題】

河岸際で岩盤洗掘が生じる可能性を踏まえた対策の検討(案として、覆礫形状の変更や巨礫配置、水制工、ネット等を検討中)

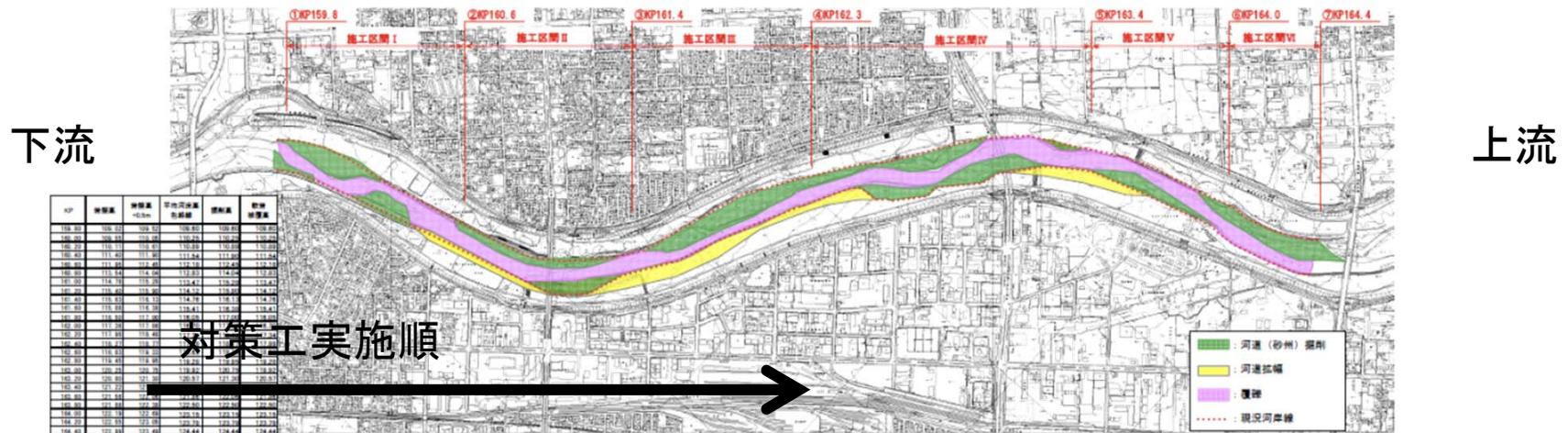
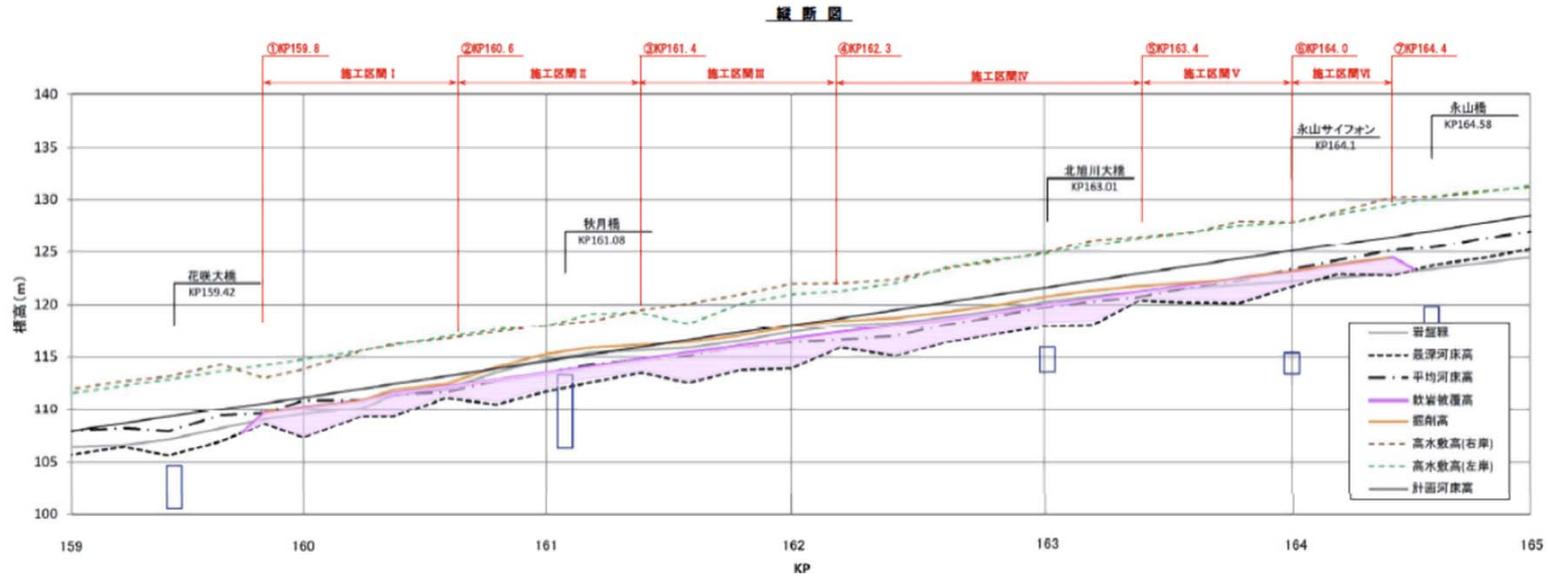
対策工完成後の渇水期における流況把握、河道断面の検討

対策工完成途中を想定した河床低下対策効果等に関する検討

上記課題はあるものの、河床低下が年々進行していることや現対策案の河床低下抑制効果が確認できているため、来年度より段階的に施工を開始する予定である。
なお、施工後も上記課題検討およびモニタリング結果を踏まえ、対策案の見直し・修正をおこなう。

河床低下対策について

- 来年度H26年度からH31年度にかけて、下流側から段階的に河道掘削、覆礫(河道整正含む)対策を実施予定



年次スケジュール

今後は以下のスケジュールを予定しています

◆河床低下対策検討 今後のスケジュール(案)

作成開始:2011/08/19
最終更新日:2014/1/17

概要	項目	平成23年度(2011年度)				平成24年度(2012年度)				平成25年度(2013年度)				平成26年度(2014年度)				平成27年度(2015年度)				平成28年度(2016年度)~				備考
		4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3					
河道管理ワーキング			●		●			●	●		●		●		●		●			●				●		
全体計画(現地施工)																										
	測量																									
	詳細設計																									
	準備・施工																									適宜帯工等を実施
	調査・モニタリング																									
室内模型実験																										
	実施																									
大型模型実験(石狩実験場)																										
	模型製作、模型の検証																									冬期は実施不可
	模型の検証																									冬期は実施不可
	実施																									冬期は実施不可
河床低下対策検討																										
	河床低下対策に関する検討																									
	①低水路拡幅・帯工案等の検討																									
	②環境・生態系、周辺住民等への影響検討																									
	③事業費に関する検討																									
	④河床低下対策工の総合評価																									
	河床低下対策全体計画(案)の検討																									
	モニタリング計画に関する検討																									
	大型模型実験結果の分析																									
地元調整等																										
予算要求等																										

本日

実験結果を適宜計画に反映

第2段階施工に向けて

大型模型実験結果を受けての再検討

大型模型実験結果を受けての再検討

モニタリング計画(案)の立案

大型模型実験見学会
大型模型実験結果の分析

補足試験等があった場合

(補足試験などがあれば)

旭川市雷堆積場及びその他占用箇所

来年度のワーキング(予定)

来年度の河道管理ワーキングでは以下の議題を予定しています

第1回:平成26年7~9月頃

[意見交換]

1. 大型模型実験(途中経過と今後予定)
 - (1)河岸際の対策
 - (2)渇水期の流況確認
 - (3)対策工完成途中段階の効果・影響
2. 他課題に対する検討結果

[報告]

2. 施工前の現地状況について
3. H26年度の施工概要について
4. 全道岩盤調査取りまとめ中間報告

[実験視察]

5. 大型模型実験視察

第2回:平成27年2~3月頃

[意見交換]

1. 大型模型実験(分析結果)
 - (1)河岸際の対策
 - (2)渇水期の流況確認
 - (3)対策工完成途中段階の効果・影響
2. 他課題に対する検討結果

[報告]

3. 全道岩盤調査取りまとめ報告

[現地視察]

4. 施工状況の現地視察